



通信 i・ストリーム 12月号



文：小川 康成

師走に入り 気忙しくなってきますが、今年は多くの忘年会や新年会などの行事が中止となっていますね。開催する立場で考えれば仕方がないのでしょうか、コロナによる自粛であらゆるイベント事がなくなり、少し寂しい1年でした。

さて、本来なら年末・年始はお出かけが増える時期ですが、今年はどうなる事でしょうか。

ところで年末年始に親戚で集まると、時には家や土地をどうするか？等、相続にまつわる話に発展する事も多々あります。今回は「生命保険の活用」について少しお話しします。



相続が発生しますと遺産分割協議が終わるまで、現金や証券、土地などあらゆるものが売却等も出来なくなる為、時には故人が家計の通帳やお金を管理していると、葬儀場の費用の工面に慌てるケースもあるようです。

このような万一の場合の緊急費用として、生命保険には最短で2～3日で早期に死亡時の保険金を受け取る事ができる「保険金一部支払サービス」が有る事が多いです。（*会社ごとに違うため確認は必要です）



保険金請求に必要な物は、①「死亡診断書」（コピーで可）②「保険証券」③「保険金請求書」の3つだけで、**300万円までの死亡保険金を書類提出後、最短で翌日（翌営業日）に受け取り出来ます。**

生命保険は遺産分割協議の対象外！

実は、「生命保険金」はあらかじめ証券に記載された「死亡保険金受取人」の人固有の権利の為、遺産分割協議と関係なく、死亡保険金受取人が受け取る事ができます。

その為、個人で受取人を誰にしようか？と考える時には、必ず家など不動産を相続する人にしておくと良いでしょう。不動産は相続に於いて最も現金化しにくい物の為、その取得者が兄弟など他の相続人に対して、保険金でその人が不動産を受け取る事の代償として支払うことが出来ます。死亡保険金受取人を、家など不動産の相続人にしておくと、後の「争族(そうぞく)」に発展する事を少しでも予防する事ができるでしょう。

「残された家族が力を合わせて仲良く暮らしてゆく。」事が、もっとも故人が望む事です。死後、思わぬ「争族」になり家族がバラバラになってしまわない為にも、生命保険を上手に活用したいですね。



使い方によっては、素晴らしい効力を発揮する生命保険ですが、使い方を知らなかったり、誤ると勿体ない事になり、後で「そんなことが出来たのか!？」と言ったケースも出てきます。気になられたら、お気軽に問合せ下さい



メンバー 近況報告

マスク届きました

岩瀬 英之

マスクを着用しての生活に最近慣れてきましたが、みなさんはどうでしょうか？今までは使い捨てマスクを使用していたのですが今回洗えるマスクを購入してみました！5月頃に話題になっていたミズノの水着の素材を使ったマスクを申し込んでみたのですが抽選で当たらず、、、あきらめていたのですが、最近再抽選で当たったようでメールが届いていたので早速購入してみました。5色あるうちのブルー、ブラック、グレーの3色を、サイズはS、M、Lあり男性はLということなので、Lサイズを購入しました。届いてすぐつけてみたのですが、すこし大きめであごのあたりがすこし余ってしまいました。ネットの口コミを調べてみたらMが大人用、Lは大き目の男性用くらいと書いてありもう少し調べてからにしておけば、、、と思いました。



つけている感じは使い捨てのものより快適なので気に入っているのですが、息のしやすいマスクは飛沫の拡散防止にはなるが自身の感染予防にはならないらしいと聞きました。なので人の多い場所に行く場合は別のマスクにするように気を付けています。寒くなってきてコロナだけではなく、インフルエンザも増えてくるのでみなさまもお気を付けください。

8050問題とは

先日、NHKスペシャルで「ひきこもりの死、親亡き後、その子はどうなる、中高年61万人の現実」...という番組を見ました。番組では就職氷河期の影響により、40才~60才の中高年の引きこもりが多くなっている事、そしてその子を養っている親が70代、80代で老齢期に入り、経済的にも体力的にも困窮しているとの事です。放送では親亡き後、行政の支援もこぼみ、外部の人との交流もなく一人さみしく死んでいくケースや、働いていないことによって、親子の関係がぎくしゃくして断絶していくケースが映し出されていました。(※引きこもりの本人は働いていないので、支援を受けるのはいけないことを思っている人も多いそうでなかなか行政の手も届かないとか)

どちらにしても子供の孤立からその家族も地域社会から切り離されている様子が伺えました。これからは中高年の孤独死がどんどん増えていくことを社会問題として考えていかなければならない時期にきているそうです。介護の問題、生活保護の問題、子供の貧困問題、雇用問題等を考えさせられることが沢山あります。困った時は誰かにSOSを出し、せっかくの命を大切に生きてもらいたいと思いました。

小川 とも子



身近になった YouTube

今までYouTubeは若い人が見るものと思って、何が面白いんだろ？と少し気になっていたものの、あまり見たことがなかったのですが、コロナ禍で外に出掛けにくくなった頃から、家で身体を動かしたくてYouTubeでヨガを検索したことが、YouTubeを見るようになったきっかけになりました。筋トレやマンションでできるダンスなどいろいろあって、見ながら一緒にできるのでだんだんはまっていきました。身体の不調改善や、気になることを検索していくと、その動画を視聴した人が何を視聴しているかが出てくるので、そこから新しい発見があったりすることも。ジャンルは様々で、最近では、本や研究結果などを要約して解説しているものがあることを知り、子供がいて本を読む時間がない私にとって、知りたいことの要点を解説してくれ、効率よく学べます。最近「脳のごみを排除する方法」の題材が気になって見てみると、認知症の人は、考えたりストレスで出る物質、脳のごみと呼ばれるアミロイドβが20代ころからうまく排除できていないとありました。対策としては①深煎りコーヒーを飲む②糖質を控える③寝る1時間前にはスマホなどをオフにして睡眠を取るとのこと。どれもできそうなことなので実践してみようと思いました。ヨガをしたり、ちょっとした知識が増えてきてすっかりYouTubeを楽しんでいます(笑)

古川 友架

